

## 市立札幌大通高等学校 ユネスコスクール活動報告

2008年新設の新定時制・単位制の本校では、幅広い分野にわたり約100科目の講座が開講されており、様々な背景を持つ生徒が学びを共にしている。本校では生徒の「多様性」を強みにするべく、教科横断学習、渡日帰国生徒支援、国際交流活動、生徒会活動等を有機的に繋げた多文化共生教育、すなわち「異なる価値観を持った他者を受容できる生徒」の育成に取り組んでいる。

### これまでの本校におけるユネスコスクール活動の取り組み

## 異文化理解・国際交流活動

### 「21世紀 東アジア青少年大交流計画（JENESYS プログラム）」

「21世紀 東アジア青少年大交流計画」の一環として、アジア各地域からの高校生訪問団を、JICE（一般財団法人 日本国際協力センター）協力の下、2010年度から受け入れを行っている。

#### 2010年度 インド高校生団訪問

インド各地から18名の高校生が来日、生徒らの家庭へのホームステイ体験の翌日大通高校に来校。英語ガイド生徒24名が校舎を案内した後、「数学基礎」「書道」「世界史A・B」「異文化理解」「LL演習」の6講座が交流授業を実施。数学基礎ではピタゴラスの定理の証明をインド生徒の一人が披露する場面も。生徒会主催の全体交流会ではグループ交流の後に和太鼓・伝統芸能部が和太鼓を演奏、インド側は「バングラ」と呼ばれるインドの踊りを披露、飛び入りで大通生徒の大勢が輪に加わり、大変賑やかな交流となった。

#### 2012年度 インドネシア高校生団訪問

インドネシア各地から23名の高校生が来日、その中の1グループ23名の高校生が本校に来校した。本校生徒家庭へのホームステイをはじめ、様々な交流活動を行った。

本校英語ガイド生徒が校舎を案内した後、「理科総合A」、「くらしの緑化」、「リビングデザイン」、「生活英語」、「数学Ⅲ」、「書道」の5教科6講座が交流授業を実施。書道では、授業内で作った作品（扇子）が、そのまま「お土産」になるというものだった。

授業後の昼食では、家庭科教員が本校生徒とインドネシア生徒との「おにぎり作り体験交流」を行った。イスラム教の戒律で食べられない食材にも配慮しながら、生徒同士楽しく交流できた。

有志生徒が主催した全体交流会では、本校和太鼓・伝統芸能部が和太鼓を演奏、インドネシア側は踊りと歌を披露し、楽しくも、多文化理解の輪が広がることを実感できる交流会となった。

#### 2013年度 モンゴル高校生団訪問

モンゴル各地から46名の高校生が来校し、1部の生徒が本校生徒家庭へのホームステイを体験した。当日は、その日行われている工芸、数学、体育、理科、音楽それぞれの授業にモンゴル生徒が参加、授業を通して交流を行った。音楽では琴の演奏体験、工芸で作った彫刻、数学で折った折り紙は、生徒にとって交流の忘れられない記念となった様子だった。

昼休みは部活動見学を行い、本校茶道部、卓球部、和太鼓伝統芸能部にモンゴル生徒が参加し、和太鼓や茶道体験、卓球部生徒との交流を行った。

午後からは英語と世界史の合同授業を行い、100名を越える生徒が参加した。授業では、クイズ形式で日・蒙それぞれの習慣の比較や、「(犬などの写真を見せ)この動物の鳴き声は何と鳴く?」という質問などを行い、互いの文化の「違い」、つまり「文化の多様性」を実感できる内容だった(モンゴル生徒が猫の鳴き声を真似すると、会場からはどっと笑い声と拍手が起きる一場面もあった)。

授業の後は、モンゴル生徒が踊りやトブショール(ギターのような楽器)演奏、練習してきた日本の歌(幸せなら手を叩こう)の合唱を披露してくれ、多文化理解とコンサートがセットになった、普段は体験できない交流会となった。

交流会中、本校在籍のモンゴル渡日帰国生徒が終日通訳を務めた。大勢を前にした通訳をやり遂げた経験は、この生徒にとって大きな自信につながったようだった。

## 台湾師範大学附属高級中学生徒が訪問

札幌市立高校と台湾の高校との交流の一環として行った。校舎見学後、理科「フィールド科学」、家庭科「リビングデザイン」、数学科「数学B」、英語科「ライティング」、「日本語」5講座で本校生徒と授業の中で交流した。授業後は、生徒による交流会で、グループごとに分かれクイズやそれぞれの高校生の中で流行っているものなどについてトークセッションをした。本校生徒は台湾についてあまり多くのことを知らなかったが、台湾生徒は日本について(AKBや、初音ミクなど)殆どのことを知っており、関心の高さが伺えた。本校生徒からは、もっと相手の国、文化のことに関心を持たなければならない、という感想が出ていた。多文化理解の態度を養うきっかけとなった。

## 米国マサチューセッツ州コンコード市カーライル高校生が訪問

北海道は米国マサチューセッツ州と姉妹州提携をしていることから、訪問を受け入れることとなった。本校英語ガイド生徒が案内し、校舎・授業見学をした後、書道部生徒による「書道パフォーマンス」を行った(作り上げた作品は、帰国後校舎に飾っているというメールをいただいた)。最後は有志生徒が全体交流会を主催し、両校とも歌を披露(本校は校歌を斉唱、校歌というものに新鮮な印象を受けたようだった)した。

## 米国オレゴン州ポートランド市グラント高校短期留学生受け入れ

2名の男女生徒を受け入れ、本校生徒の家庭がホストファミリーとなった。最後は学校祭で、それぞれの研究テーマ(日本人が持つ「謙虚さ」といった精神についてなど)について発表した。また、これまでは受け入れの話がある度に家庭へ案内をしていたが、これを機会に「ホストファミリー登録制度」を新たに始め、交流生徒受け入れ態勢を整備した。

## ESD 日米教員交流プログラム 米国教員団訪問

日米教育委員会(フルブライトジャパン)派遣の米国教員16名が来札、本校夜間部を訪問。英語ガイド生徒11人が校舎を案内した後、夜間部のショートホームルームを見学、日本のホームルームの役割についての活発な質疑応答の時間があつた。続いて「ジョブトレーニング」を見学し、「くらしの緑化」「アニメーション技術」への授業参加。また「生活英語」と渡日帰国生対象の「日本語」では米国人教員と大通高校の生徒とが討論、高校卒業後の目標やESDについて生徒が語る場面も。最後に大通教員と米国教員で交流会を行った。

## 米国マサチューセッツ州 ファイブカレッジセンター教員視察団が本校を訪問

ファイブカレッジセンター(マサチューセッツ州アマースト市内と周辺にある、5つの大学が共同で運営している機関。小中高大で行われている東アジア文化についての教育を普及する活動を行っている)からの教員14名が本校を訪問した。校舎・授業見学を行った後、本校教員と日米の教育事情などについて情報交換を行った。日本のホームルームの役割や、

不登校生徒への対応、進学率の問題など、それぞれが抱える問題から日米共通の問題まで、活発な質疑応答・意見交換ができた。

## Circle The World（札幌国際教育推進委員会主催 ALT 交流会）に参加

札幌市のALT（外国語指導助手）が企画するワークショップと、生徒自ら行うワークショップにより、小さな世界旅行（Circle The World）を体験する、というもの。今年度はALT 23名と、札幌市立高校7校からの生徒約140名が来校。本校の渡日帰国生徒、遊語サークル（国際交流・多文化交流活動を行う本校のサークル）生徒らが料理の紹介・試食、ゲーム、クイズ、楽器演奏等によりワークショップを企画。中国語・ロシア語・タガログ語・モンゴル語・英語など、世界5ヶ国の言語で、本イベントのテーマである「文化の多様性」に大きく貢献した。

企画内容：ALT企画「WS related to experience in China」「Devali or Indian related」「Halloween」「Scottish dance」

大通高校企画「一風変わった食べ物（エジプト人講師・大通高校教員）」「中国クイズ（遊語サークル中国籍生徒）」「ロシアの祭りとロシアクレープ（遊語サークルロシア籍生徒）」「フィリピンのゲーム（遊語サークルフィリピン籍生徒）」「NZクイズショー（遊語サークルNZ帰国生徒）」「モンゴルクイズと馬頭琴の演奏（遊語サークルモンゴル籍生徒）」「和太鼓演奏（和太鼓・伝統芸能部生徒・顧問）」

## 教科横断授業・環境教育

### ミツバチプロジェクト（札幌市 平成24年度 学校の夢づくり支援事業採択）

校舎屋上で養蜂、採蜜をし、蜂蜜を使った商品開発、販売までを行う。巣箱巣枠作成を芸術科で、飼育・採蜜を理科で、採蜜した蜂蜜を用いた商品開発を家庭科・情報商業科で、商品パッケージデザインを情報商業科・芸術科で、蜂蜜を使用した調理実習では家庭科・中央幼稚園で、別の蜂蜜お菓子作り講習会はPTAも開催、更に教員の幼稚園への出張講義、幼稚園児が来校したミツバチ見学会も開催、英語科ではミツバチの生態を学び可能性を探る授業をした。また開発した商品（蜂蜜・マカロン・ドレッシング）は、9月大通公園で行われた「オータムフェスト」において情報商業科で販売。最終的な販売会計処理も商業情報科で行った。その他、生涯学習センターの学社融合講座でミツバチプロジェクトの授業も展開、その受講者、PTAにはボランティアで飼育・採蜜のお手伝いもしてもらう。今後も学内外との連携を取りながら、持続可能な事業として展開する。

### JNNE 教育NGOネットワーク 「世界一大きな授業」に参加

本校は、生徒の視野を広げるとともに、学習の意義を考えさせ、学習意欲をつけさせるために、4月の授業開きに「世界一大きな授業」に参加している。「女の子と女性の教育」、「震災から見た教育の大切さ」、「全ての子どもに教育を」などをテーマに、世界中の学校で同一時期・同一テーマで授業を行うことにより、教育の大切さを全員で考える。

「総合的な学習の時間（3年次）」、理科「地学Ⅰ」「理科総合B」、数学科「数学Ⅰ（新課程）」、家庭科「フードデザイン」、地歴公民科「世界史A、B」「地理A」、英語科「英語Ⅰ」「異文化理解」「OCI」「生活英語」等計26講座で授業を行い、一週間で延べ約500名の生徒が参加した。全日制の学校では、総合的な学習の時間などで一斉に行うのが通常であるが、本校では単位制であることを活かし、各教科ごとに授業を行うことにより、各教科の特性を活かし、教科横断的に様々な角度からテーマに迫った。生徒からは、「教育を受けられることの有り難さ」を実感する感想等が寄せられた。

## ベラルーシ共和国からの児童との交流

授業「ボランティア」にて、「NPO 法人チェルノブイリへのかけはし」の保養里親活動により来札しているベラルーシの児童2名と事務局の方を招き、今も続く1986年のチェルノブイリ原発事故の放射能の影響、将来の夢についてなどをお話頂いた。

生徒にとり、放射能で汚染され、地域社会の産業や自然環境が持続不可能となるとどうになってしまうのか、ということを考える機会となったようだった。

## 札幌国際プラザ25周年「未来に向けてプロジェクト」市立高校生プレゼンテーションプログラム出場（審査員特別賞を受賞）

札幌市立高校生が「札幌の国際社会に果たすべき役割」というテーマでプレゼンテーションを行った。本校からは生徒会メンバー、遊語サークル・渡日帰国生徒、有志生徒計7名が参加し、本校で行っている多文化理解活動の経験をもとに、札幌市の役割として外国生徒への学習支援や、学生、地域社会コミッティー設立の必要性などを訴えた。特に本校渡日帰国生徒が発表した、日本語学習で苦労した体験、ボランティアに支えられた体験は、今後の札幌の国際化に伴う外国籍生徒や労働者へのサポートなど、国際社会での役割を考える上で大変参考になるもので、好評であった。

## 平和教育・人権教育・福祉活動・国際協力

### 大通-ルイジアナ教科横断ピースプロジェクト（文部科学省委託 日本/ユネスコ パートナーシップ事業）

「自分以外の目から“いのち”を見つめる～価値観の違いを越え、平和について考える～」をテーマに、本校と米国ルイジアナ州立大学附属高校2校間による国際理解・平和教育プロジェクトである。生徒が平和の大切さについて、メールやビデオ交換、ムービー製作し、それをネット配信するなどの方法で対話を行った。

米国との平和教育というと、戦争をテーマに英語科メインで行うイメージがある。しかし、今回は地歴公民科、商業情報科、数学科、書道科、美術科が参加し、各講座が教科の特性を活かしたテーマ（以下の表を参照）を設定、教科横断を行うことで学びを有機化させ、課題発見能力・クリティカルシンキング（批判的思考力）の醸成を目指した。

本校生徒からは戦争や平和についてこれほど深く考えたのははじめてだった、考えが深まった、という感想や、ルイジアナ高生からは、最初は「戦争は必要だ」という意見だったが、意見を交わしていく中で「戦争は必要ないのでは」という意見が多数出てきた。米国教員からは、広島原爆ドームに行き衝撃を受け、「原爆は必要だった」というアメリカ国民の言葉に表れるようなアメリカの平和教育と、国際理解教育の足りなさや偏りを痛感した、という感想が寄せられた。

学習のまとめとして、古雑誌を使い2校共同で千羽鶴を折り、本校生徒が広島へ見学旅行に行った際に、平和記念公園に献納した。

講座	授業内容（大通高校）
OCI	英語スピーチ「My Peaceful Image」パワーポイントでのプレゼンテーション制作
OCII	札幌紹介ビデオ制作・学校紹介ビデオ制作・各翻訳作業・共通教材「I Saw It」を用いての手紙対話・プレゼンテーション大会総括
異文化理解	ビデオ対話「戦争：平和と正義」・日米文化比較ビデオ対話・日本行事紹介ビデオ制作
日本史A	The Enola Gay – The Smithsonian Controversy-を題材に「原爆」について討論
世界史A	平和に貢献した歴史上の人物・出来事の一つ取り上げレポート作成
世界史A (国際クラス)	①韓国・中国・ロシアで「広島と原爆」をどう教えているか原語と日本語訳で発表 ②米・日・韓・中・露の歴史教育の内容について比較交換学習
美術II	「美術における平和への関わりについて」をテーマに制作活動、作品を郵送

書道Ⅰ・Ⅱ 生活に生きる書	平和をモチーフにした書道作品を制作、DORIスペースでのピースプロジェクト書道展。作品パネルを郵送
よくわかる 商業と経済	企業から読み取る「平和に生きる社会」 ～平和な社会を作るための企業努力についてリサーチ及びプレゼンテーション～
数学基礎	①原爆と千羽鶴について ②鶴の折り線を解析して三角形や円から折る（平和について考えながら「数や図形と人間の活動」を学ぶ） 作品を郵送
国語総合2	ドキュメンタリー「ヒロシマナガサキ」を鑑賞、意見交換
2年次 (広島研修)	広島学習～過去・現在・未来～をテーマに三回構成での事前学習及び広島研修。ルイジアナと大通での共同千羽鶴を作成、来年5月、広島平和記念公園での献納
教科	授 業 内 容 (ルイジアナ州立大学付属高校)
情報テクノ ロジー科 数学科 社会科 理科 国語科	1. 学校紹介・バトンルージュ紹介 ビデオ制作 2. 日米文化比較ビデオ対話 3. 「平和と正義」ビデオ対話 4. 原爆についての討論 5. 平和をモチーフにしたア ートワークの作成(大通へ郵送予定) 6. プロジェクト参加生徒企画による付属小学校生 徒への平和授業・千羽鶴ワークショップ 7. 大通高校プレゼンテーション大会へのフィ ードバック 8. ピースコマース作成・プレゼンテーション・ネット配信 9. ドキュメンタリー「ヒロシマナガサキ」鑑賞・意見交換 10. 共同千羽鶴作成(大 通2年次生徒が広島で献納)

## ユネスコ・コーアクション活動キャンペーン「世界寺子屋運動」街頭募金に参加

北海道内のユネスコスクールが集まり、世界各地の学校へ行けない子どもたちのために街頭募金活動を行った。本校からは生徒会のメンバーを中心に、有志生徒も参加し、およそ3時間、声を枯らしながら募金を呼び掛けた。当日参加した他校とも合わせ、総額230,191円の寄付金を集めることができた。

## 渡日帰国生徒による小学校への派遣授業

真駒内公園小学校の人権教育の取組に協力し、「遊び」を通して友達や様々な人とふれあい、仲良くなることを目標にしている単元の中の一時間の授業に参加した。

当日は1年生の子どもたちと一緒に給食を食べ、露・中・比・蒙・ニュージーランドの渡日帰国生徒が、自分の国のゲームを紹介して一緒に遊び、最後には子どもたちからかわいい手紙をいただいた。

小学生の中には、初めて出会う外国人が遊語のメンバーという子どももいたので、緊張したり戸惑ったりしないように、事前に何度もリハーサルをしたり、準備を慎重に行ったり工夫をしていた。日本の小学生との触れ合いは貴重な経験であった。

## ウガンダ～大通高校「Heart ♥ project」

ウガンダ共和国のエイズ孤児を支援するNPO法人「Peace」の協力のもと、9月にウガンダの子ども達を本校に招き交流会を行った。12月の本校行事「プレゼンテーション大会」の中では、ウガンダと本校をスカイプでつなぎ、同時中継を行った。生徒からはウガンダの現状について活発な質問があり、本校生徒が同時通訳を務めた。最後は交流のテーマソング「One earth」をウガンダにいる子どもたちとスカイプを通して一緒に歌い、心をつにじた。当日はチャリティーとしてウガンダの子どもたちが作成した携帯ストラップのお守りの販売、ボールペンの寄付呼びかけなども行った。終了後、生徒からは「(募金などの支援活動を)自分にできることからやっていきたい」「学校に通えないウガンダの子どもたちを見て、学校に普通に通える自分たちは、いかに幸せか改めてわかった」という感想が寄せられた。

## フィリピン台風被害者支援活動

2013年11月8日、フィリピンに巨大な台風・ヨランダが直撃し、レイテ島を中心に巨大な被害を与えた。11月10日、レイテ州の警察は台風の進路にあった住宅や構造物の約70～80%が破壊され、死者が1万人に達するとの推定を発表した。被災地を訪れた国連関係者は、2004年スマトラ島沖地震以来の被害と述べた。当時、ちょうどフィリピン留学をしていた遊語部の副部長が台風被害に遭い、また、元部長がフィリピン出身ということから、遊語部で支援活動を開始した。5月に、円山動物園で行われたアースディに参加し、フェアトレード商品及びオリジナルポストカードの販売を行った。フィリピンの美しい風景を取り戻そうという願いから、フィリピンの風景写真をポストカードにし、また美術部の生徒が描いた動物の絵をポストカードにした。6月には大通り公園で開かれたフェアトレードフェスターに参加し、販売以外に、ステージパフォーマンス、ファッションショーにも協力した。売上金はすべてフィリピン被災者に寄付する。今後も支援活動を行っていく予定である。

## 地域文化・伝統文化教育

### 「アイヌは今」 ～北海道の伝統文化保存の取り組み～

財団法人アイヌ文化振興研究推進機構の協力を頂き「さっぽろ探究」講座が講演会を開催。北海道サミットをきっかけに広がった「先住民サミット」の取り組みを中心に、今日、アイヌ伝統文化の保存に取り組むことの国際的な意味などについてお話頂いた。また、本校行事「プレゼンテーション大会」にて、アイヌの女子高校生を招き、アイヌの現状について本校生徒と議論を行った。生徒からは「同じ北海道人としてもっと関わりを持ちたい」「自分の知らないことを知ることができた」などの感想が寄せられた。

7月には、ノルウェーの先住民「サーメ」の伝統音楽である「ヨイク」を演奏するミュージシャンを招き、コンサートを行う予定。アイヌとの共通点や、異なる点を体験することにより、異文化理解と同時に自分たちの伝統文化を理解するきっかけとしたい。

## ESD交流プログラム参加実績

### アジア／太平洋 小・中・高・大学生 ESD ワークショップ, 2011

大阪府立大学に日・韓・中・タイ・フィリピンの小中高大学生が集まり、未来を担う一人ひとりが「持続可能な未来」をつくることに参加するため、多様な視点から、地域と地球規模での問題を理解し、学年や国を超えた、未来の世代の若者を育てるワークショップである。

プログラム内では、それぞれの学校で取り組んでいるESDの取り組みの発表、温暖化などの環境変化観察などを合宿して行い、『若者世代』としての連帯感を深め合った。

参加した本校生徒の一人は、このワークショップを機に、本校でも生徒の目線でESDに取り組める環境を作るべく、帰校後、自ら立候補し生徒会長になった。生徒会活動に精力的に取り組み、「世界寺子屋運動」への参加を企画し、生徒会行事として定例化させるなど、様々な場面でESDの重要性を訴え、本校内外のESD活動に大きく貢献した。

### 「日韓中高校生フォーラム」「フォーラム準備セミナー」への参加

日韓中3カ国の高校生が「持続発展可能な社会のために自分たちができること」をテーマにディスカッションするフォーラムと、その準備のためのセミナーである。高校生が自分たちで運営すること、「ディベート」ではなく「ディスカッション」することにより、「課題発見能力」や「問題解決能力」、そして何より「他者への思いやりの心」の醸成を目的としている。本校から2名の生徒が、3回に渡り大阪へ出向きこれに参加してきた。これまでの多文化交流経験を活かし、

運営や、中国韓国生徒との交流を行ってきた。最初はうまく他校の生徒に対し意見を述べるができなかったなど、「自分にはコミュニケーション力がないのでは」とマイナス思考になる場面もあったが、「他者の意見に耳を傾ける」ことも大事なコミュニケーションであること、「一番身近な小さな問題から解決する」think globally, act locallyの精神など、ESDの重要な考え方を自ら得ることができた。

参加者のうち1名は、これを機会に多文化理解への視野が広がり、フィリピンへの留学を決心。北海道の留学促進事業特待生に合格し、7月より1年間留学する。

### 「ESD日米青年交流プログラム」への参加

全国から選出された高校生が米国を回り、米国高校生と互いの歴史を学びながら、持続可能な未来に関する意見交換、交流を行うプログラム。

アメリカの生徒は環境活動に大変関心があることや、偏見・差別から始まるいじめ問題に関しても、反いじめキャンペーンを行い、いじめ防止に取り組んでいることがわかり、米国のESD活動を直接学べたこと、また国連本部の見学や、米国の人種差別問題、奴隷制度の歴史に直接触れることができ、強い印象を受けていた。

本校に帰校後は、本校行事「プレゼンテーション大会」にて米国の環境教育、ESDについて報告し、プログラム中に会った仲間と、ゆくゆくは福祉や平和活動を行うプロジェクトを立ち上げることも企画したい、と述べていた。

### 第3回ユネスコスクール事業「ESD国際交流プログラム」への参加

公) 日本ユネスコ協会連盟が行うプログラムに本校生徒1名が選考され、全国の高校生とともにフランス・ドイツへ研修に参加した。プログラム中では、ユネスコ本部や世界遺産の見学、本校のESDについてプレゼンテーションを行った。これらの経験を、本校行事「プレゼンテーション大会」での発表を通じて本校生徒へ還元した。

## 大通高校における渡日帰国生徒への取り組み

### 国際クラス

海外帰国生徒等の特別枠を利用し入学した生徒に対して設置。日本語能力に課題のある期間は、国際クラスで日本語を中心に学び、高校生活への適応度を上げることとしている。学校行事等では日本人生徒と共に参加もするが、国際クラスとしても参加し、主体的に関わる機会を増やしている。補習等の学習支援に加え進路や生活相談も行っている。

### 保健支援部

保健支援部の取り組みとして、学期ごとに日本語学習歴や状況・目標などを「個別の指導計画」として作成、報告することにより、教科学習に必要な支援を周知している。また、定期考査や日常の学校生活の面で配慮が必要な事項については、保健支援部と国際クラスの正副担任が中心となり、年次のホームルーム担任と密に連携を取り合いながら支援体制を構築している。

### 「遊語サークル」の取り組み

遊語サークルは渡日帰国生徒と異文化理解や言語に興味のある一般生徒が共に学び合える場として設立された。日常の活動では日・中・韓・露・英語などの言語学習、スピーチ大会への参加、学校祭、プレゼンテーション大会やALT交流会など学校内外で各国文化の発表等を多岐にわたる活動を行っている。昨年度からは、小学校で生徒の出身国の遊びや文化を紹介する出前授業を行ってきた。海外からの訪問団来校時には、英語や中国語で通訳を務めたり、交流会の企画、運営も行っている。

## 広義の“多文化”理解と共生に向けて

本校は、「異なる価値観を持った他者を受容できる力を持つ生徒の育成」を目指し、各交流事業やプロジェクト、各教科の授業で多文化理解教育活動を行っている。さらに日常生活において、機会に応じ多文化交流会議・保健支援部・特別活動部が一般生徒と渡日帰国生徒を繋げることで、彼らが相互に異文化適応能力を高め合うことを目標としている。全生徒

へ向けて単なる「多文化共生」＝「外国と日本」というアプローチで終わるのではなく、社会全体に存在する異なる背景や価値観を持った他者を受容し、行動できる生徒を育て、より広義の“多文化”共生教育への発展を今後も目指していく。